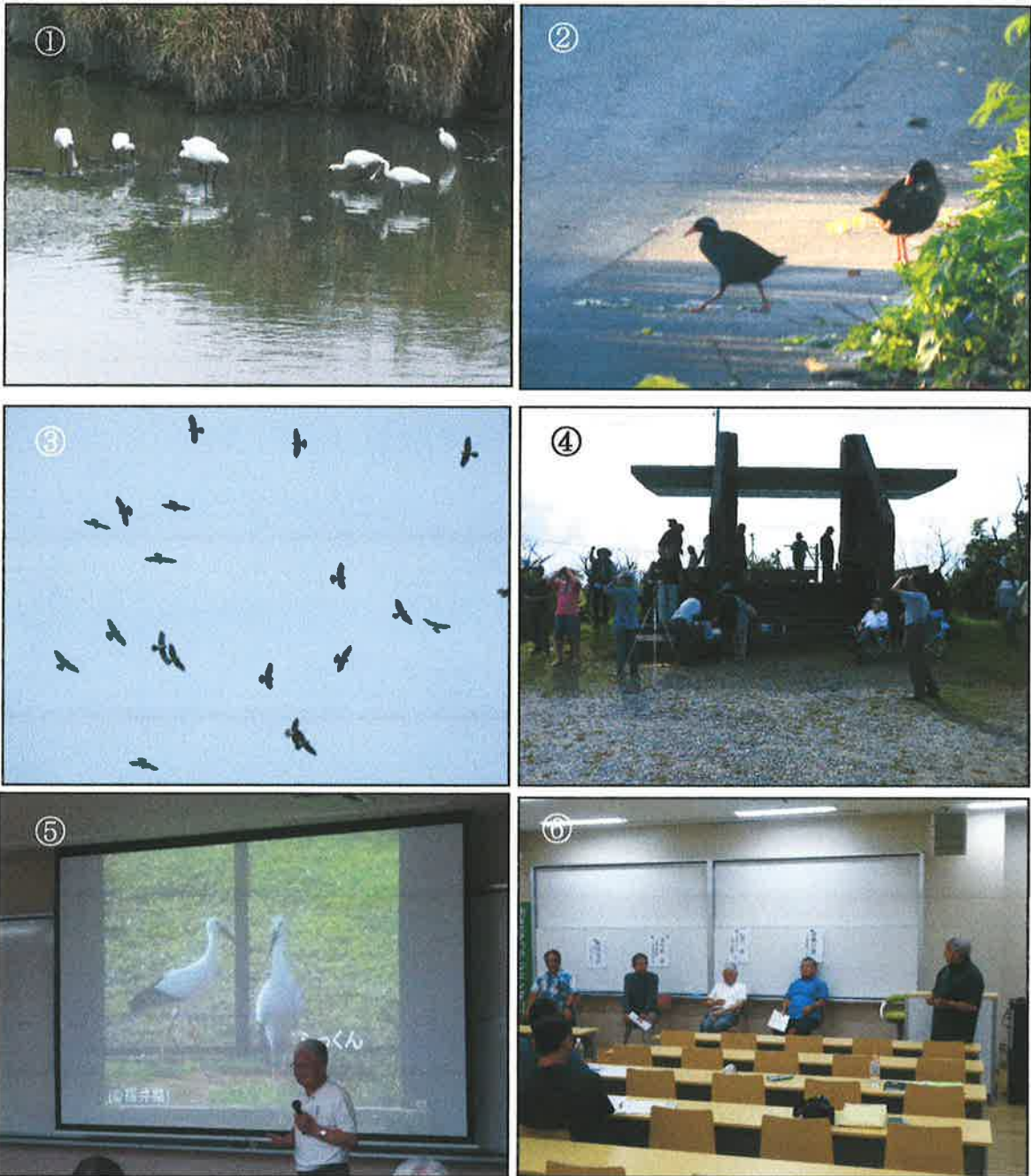


事業実施完了報告書②

| | |
|------------------|--|
| 事業名 | バードウォッチングを通しての地域自然資の保全・利活用について(シンポジウム) |
| 団体名 | 名桜大学国際学群新垣ゼミナール |
| 実施概要 (200字以内) | <p>県内及び県外からバードウォッチング分野やエコツーリズム分野の活動家や専門家を招へいし、バードウォッチング及自然体験をテーマとした一般公開のシンポジウムを開催し、沖縄におけるバードウォッチングの促進や地域活性化、環境保全と利活用等の方向性について学習する機会を地域と共有する。</p> <p>シンポジウムの招聘者(山岸氏、仲地氏)の現場視察として、三角池(豊見城市)、億首川周辺の田園地(金武町)、羽地内海干潟(名護市)及び安田周辺(国頭村)でバードウォッチングを実施し、現状及び課題の共有をする。</p> <p>実施</p> <p>・シンポジウム 9月23日(日)16:00-18:00 場所:名桜大学サクラウム3階大講義室B</p> <p>・バードウォッチング</p> <p>9月22日:三角池(豊見城市)、9月23日:安田周辺(国頭村)・羽地内海干潟(名護市)、9月24日:嘉津字岳アカハラダカ渡り観察(名護市医)・億首川周辺田園地(金武町)</p> |
| 実施内容 | <p>特別講演の講師として山岸哲氏(兵庫県立コウノトリの郷公園園長)を招請し、地域事例報告講演の講師として仲地邦博氏(宮古島野鳥の会会長)を招聘した。パネルディスカッションでは、前述の二氏をパネラーとし、コメンテーターとして渡久地豊氏(国指定屋我地鳥獣保護区管理員)、コーディネーターを新垣裕治(名桜大学国際学群教授)を行った。総合司会は桑原稔氏(沖縄エコツーリズム推進協議会)が行い、閉会の挨拶は嵩原健二氏(沖縄野鳥研究会)が行い、シンポジウムが進行された(詳細は別添の冊子を参照)。</p> <p>特別講演の山岸哲氏は、「コウノトリの「げんきくん物語」のテーマで講演をして頂いた。コウノトリのげんきくん(2014年に福井県で生まれる)の国内での移動、海外(韓国と北朝鮮)への移動の追跡調査のデータを基に、コウノトリの棲息できる環境づくり、環境づくりにおける関係者(地域の人々も含)の協力、仕組みづくり等の話題提供をして頂いた。仲地邦博氏には、「宮古野鳥の会」のテーマで、宮古島野鳥の会のこれまでの取り組み、年間の活動、地域の環境保全の取り組みやバードウォッチングを通しての地域の子供達への環境教育等の話題提供をして頂いた。これらの講演を受けて、パネルディスカッションでは、渡久地豊氏が、沖縄島北部地域でのヤンバルクイナやノグチゲラ等の保護活動との関連でのコメント、また、地域でのバードウォッチング等の活動を通しての環境保全等へのコメントを頂いた。シンポジウム参加者からは、コウノトリの追跡手法や宮古島のアカハラダカやサシバの渡への詳細なデータについて確認が行われた。また、山岸氏と仲地氏からは、観光としてのバードウォッチングでの地域活性化や、また、多くの人々がバードウォッチングとして訪れるこのへの野鳥への影響等の課題について言及がなされた。</p> <p>閉会の挨拶で、嵩原健二氏により、講演とパネルディスカッションの総評をして頂き、本シンポジウムが沖縄島、沖縄県の野鳥の現状、環境保全、環境教育等に置いて非常に参考になることとの挨拶をして頂いた。今回のシンポジウムで今後へ向けての課題としては、参加者が少なくコウノトリの保護や宮古島野鳥の会の活動を多くの方々と共有できなかったことである。また、一方では、参加者が少ない分、講演者と参加者が深い議論をすることができたことである。</p> |



①三角池のクロツラヘラサギ ②国頭村伊部集落のヤンバルクイナ ③嘉津宇岳のアカハラダカのタカ柱 ④嘉津宇岳のアカハラダカの観察会 ⑤山岸哲氏の講演 ⑥シンポジウムでのパネルディスカッションの様子



野鳥を通して考える地域の自然環境の 保護と活用



日時/場所

2018年9月23日(日)

16:00~18:00

名桜大学 SAKURAUM (3階)

大講義室B

企画・手配

やんばるバードウォチングクラブ/名桜大学国際学群新垣研究室

※この企画は、IECO-Okinawa 募金「おきなわアジェンダ21 NPO等環境ボランティア活動支援事業」(平成30年度)の助成を得ています。

【プログラム】

司会：桑原 稔

(沖縄エコツーリズム推進協議会/やんばるパートナーシップクラブ)

[開会] 新垣裕治 (名桜大学国際学群教授/やんばるパートナーシップクラブ)

[特別講演] 16:05-16:50

山岸 哲 (兵庫県立コウノトリの郷公園園長)

コウノトリの「げんきくんものがたり」 (p.1)

[地域事例報告講演] 16:50-17:20

仲地邦博 (宮古島野鳥の会会長)

宮古野鳥の会 (p.2)

《休憩》 17:20-17:30

[パネルディスカッション] 17:30-17:55

コメンテーター：渡久地 豊 (国指定屋我地鳥獣保護区管理員)

パネラー：

●山岸 哲

●仲地邦博

コーディネーター：新垣裕治

[閉会] 嵩原健二 (沖縄野鳥研究会/やんばるパートナーシップクラブ)

コウノトリの「げんきくん物語」

山岸 哲

兵庫県立コウノトリの郷公園園長

コウノトリは今から 47 年前の、1971 年に日本の空から姿を消した。その後、私どもの郷公園で約 100 羽、その他全国の動物園や飼育施設で約 100 羽、合計約 200 羽、放鳥された鳥と野外で生まれた鳥が約 100 羽を超え、我が国のコウノトリは、現在およそ 300 羽存在していることになる。一方、ロシアや中国に 2000～3000 羽が生息しているから、世界の約 10 パーセントが日本に生息していることになり、その数の少なさから特別天然記念物（文化庁）・希少野生動植物種（環境省）に指定されている。

このコウノトリが、どのように絶滅の淵から回復してきたかをお話ししてみたい。その一例として、2014 年に、福井県越前市で生まれ、翌年放鳥された「げんきくん」と呼ばれるオスのコウノトリのお話しをするつもりだ。げんきくんの波乱万丈の半生を知ることによって、希少鳥類の野生復帰の難しさや楽しさを知っていただけるなら幸いである。コウノトリの舞う姿は、本当に見事である。そんなコウノトリが暮らせる豊かな環境、それは私たち人間にとっても暮らしやすいものではないだろうか。そんな自然を取り戻すために、私たちは何をしたらよいか、一緒に考えようと思う。

プロフィール

●1939 年長野県須坂市生まれ。信州大学教育学部卒業（京都大学理学博士）。大阪市立大学理学部教授（大阪市立大学名誉教授）、京都大学大学院理学研究科教授。山階鳥類研究所所長。新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター長を経て、2010 年から兵庫県立コウノトリの郷公園園長。

この間、日本鳥学会長、応用生態工学会長などを務める。

●1999 年山階芳麿賞受賞。

●主な著書に『モズの嫁入り』（大日本図書）、『マダガスカル自然紀行』（中公新書）、『けさの鳥』（朝日新聞社）、『Birds Note』（信濃毎日新聞社）など。

（© 読売新聞社）



宮古野鳥の会

仲地邦博
宮古島野鳥の会会長

1. 具体的な活動と実績

新春探鳥会（1月）、愛鳥週間の探鳥会と写真展（5月）、アジサシ類の繁殖・生態調査（6～7月）、アカハラダカ飛来数調査と観察会（9月）、サシバ飛来数調査と観察会（10月）を年間行事の柱として活動している。また小・中学校・一般向けに「宮古の自然と野鳥について」の講話や講演会の講師を務めたり、新聞や雑誌に寄稿したりしている。

- ①サシバ保護活動と飛来数調査を1973年から45年間実施している。
- ②1980年に本会が、日本で初めてアカハラダカの渡りを確認した。1986年より、組織的な飛去数調査を現在まで実施。
- ③マミジロアジサシの集団繁殖北限の確認とバンディング、県内初のツバメチドリの繁殖確認、国内初の鳥類の確認など新しい知見等を数多く発表。
- ④1999年に「宮古野鳥の会 25周年記念誌（274種）」の発刊と「宮古諸島の鳥類目録（274種）」の作成、2010年に宮古諸島の鳥類目録（330種）を改訂、2014年に「40周年記念誌（346種）」の発刊。
- ⑤2012年与那覇湾のラムサール条約登録に協力。

2. 今後の活動目標

- ①与那覇湾の活用と保全を図る。
- ②宮古諸島のアジサシ類の繁殖地（コロニー）保全を図る。
- ③宮古島の森林面積は島の16%しかありません。その中でも最大の面積の大野山林の質的充実と面積の拡大を宮古島市に働きかける。
- ④減少が止まらないサシバの休息地となる「サシバの森」を育成する。
- ⑤サシバの繁殖地、中継地、越冬地の連携を図る国際会議「国際サシバサミット（仮称）」を開催、参加する。

3. プロフィール

1955年 宮古島市池間島で生まれる
1979年 名古屋大学医学部中退
1994年 進学塾・未来を設立
2006年 株式会社・未来教育システムに改組
2009年 宮古野鳥の会会長に就任
2013年 みどりの日・自然環境功労者「環境大臣表彰・保全活動部門」

メモ

A series of horizontal dotted lines for writing notes, spanning most of the page width.

メモ

A series of horizontal dotted lines for writing notes.

メモ

A series of horizontal dotted lines for writing notes.

作成
新垣裕治
名桜大学国際学群教授
y.arakaki@meio-u.ac.jp

野鳥の調査通し 環境保護考える

23日、名桜大でシンポ

【名護】やんぼるバード

ウォッチングクラブと名桜
大学国際学群新垣研究室は
23日午後4時から6時ま
で、名護市の同大学生会館
SAKURAJIMで、野鳥
を通し地域の自然環境保護
と活用を考えるシンポジウ
ムを開く。入場無料。

日本の鳥類研究の第一人
者、兵庫県立コウノトリの
郷公園園長の山岸哲さんが
特別講演する。コウノトリ
の人工化と放鳥、追跡調
査から得られた環境課題な
どについて語る。地域事例
報告として宮古島野鳥の会
会長、仲地邦博さんが宮古
島での取り組みを語る。

5日、琉球新報社北郡支
社を訪れた名桜大の新垣裕
治教授は写真には「環境保
全を考えるきっかけにして
もらえたらありがたい」と
来場を呼びかけた。

問い合わせは0980
(51) 1081 (新垣)。

希望者にはインターネット
配信もある。

